

◆実践校名 摂津市立烏飼小学校、吹田市立北山田小学校、茨木市立葦原小学校

◆主題名 家族みんなで協力し合って 道徳の内容 中学年 C-家族愛

◆ねらい

家族の一員としての役割を理解し、家族みんなで協力し合って楽しい家庭を作ろうとする態度を育てる。

◎ 中心的な発問

「ぼくにも何かさせてください。」と言ったとき、ブラッドレーは、何に気が付いたのでしょうか。

◆ 本時の展開

	学習活動	発問と予想される子どもの反応	指導上の留意点
導入	◎家で自分がしている仕事について発表する。	<p>おうちの仕事で、どんなことをしていますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 風呂洗い、洗濯たたみ、食器洗い、ゴミ出し、ペットの世話… <p>仕事をしている理由は何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 当番だから、親に言われるから、お小遣いがもらえるから、自分から進んで。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全員が考えられるように、「同じ仕事でもいいよ」と問いかけ、頻度や具体的な内容を聞いて、意見を引き出す。 ○どんな理由でも、否定せずに意見を出させる。
展開	◎資料を読む。 前半部分を読み、ブラッドレーの心情について考える。	<p>ブラッドレーはどんな気持ちで請求書を書いたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うまくいくかなあ。怒られるかな。お小遣いがもらえるといいな。 <p>4ドルもらった時のブラッドレーはどんな気持ちだったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やった、うまくいったぞ。うれしいな。次は、何の仕事でもらおうかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○資料は、教師が範読する。 ○指導者が作成したブラッドレーの請求書を掲示して、気持ちを共感的にとらえさせる。
	◎後半部分読み、ブラッドレーの心情を考える。	<p>お母さんの請求書を見た時、ブラッドレーはどんなことを考えましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なんで0円なの。お母さんはお金をもらっていない。悪いことをしたかな。お金は返そうかな。 <p>「ぼくにも何かさせてください。」と言った時、ブラッドレーは、何に気が付いたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お母さんにひどいことをしてしまった。お母さんは毎日家族のために仕事をしている。当たり前だと思っていたが、お母さんありがとう。自分もお母さんみたいに、家族のために仕事をしよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○お母さんの請求書を掲示して、気持ちを共感的にとらえさせる。 ○2人の請求書を対比させ、お母さんの無償の愛情に気付かせる。 ○勤労・奉仕に傾かないように、家族愛に注目させる。

終 末	◎自分がしている仕事を振り返る。	お母さんのように、あなたが家族のことを考えながらしている仕事はありますか。	○導入で考えたお手伝いの中に、この観点に合うものがあるか考える。 ○家族のために働いてくれている母親への気付きや自分がしてきた仕事について、またこれからできそうな仕事について書く。
	◎ノートに振り返りを書く。	今日の学習の感想や、自分のしている仕事について考えたことを書きましょう。	

<評価>

母親の家族に対する愛情に気付いた主人公に共感するとともに、自らも家族の一員としての自覚を深めることができたか。

(評価方法)

ノートに書いた感想を見て評価する。

<評価をいかした支援>

母親の家族に対する無償の愛を感じ取らせたいが、押し付けにならないように気を付けたい。資料を通じて感じ取った家族愛について、実生活において実践できそうなことはないか考えさせたい。

◆研究のまとめ

○授業実践について、チームとしてのまとめ

成果、改善策

- 予想とちがう展開の時に子どもの関心が高まる。そこから、じっくり中心発問について考えさせる時間が大切である。話がこの先どうなっていくのか展開がわからないように、ワークシートを使うことも有効だと感じた。自分の予想とちがった場合などでは、子どもにとって印象に残りやすく、これまでの価値観や考え方が揺さぶられ、新たな気づきや学びが生まれるのではないかと考える。
- 導入で考えさせた自分のお手伝いに対する考え方が学習後にどのようになったのかを考えながら振り返りを書くことが学習の深まりにつながる。そのため、読み物の内容についての学習時間をできるだけ短くし、自分の生活や手伝いのことを見つめる場、交流する場を保障することが大切だと感じる。
- 勤労、奉仕のねらいにならないよう、「家族の一員としての役割を理解し、家族みんなで協力し合って楽しい家庭を作ろうとする態度を育てる」というねらいに向けて「ブラッドレー」と「母」の対比を明確にした方がよい。母親がブラッドレーに教えようとした「無償の家族愛」を観点とし、見返りを求めず、家族を思う気持ちに支えられた自然で愛情あふれた行動として「お手伝い」を捉え直させることが大切であると考えます。

○道徳の評価についての提言

●道徳性の評価について（方向性）

- ・ふりかえりの言葉（ワークシートやノート）だけでは、評価が難しいところがある。
 - 実生活（経験・習慣化）に生かしていけるか。そのときだけの知識（教師の意図を汲んだ発言）としてねらっている言葉にしかすぎないときがある。
 - 内面の成長を促す評価であるべき。
 - 子どもの成長を見るために、学校全体・学年・クラスでカリキュラムを構成して、学期に一度は書かせることも必要になる。

●取組後の児童・生徒について（方向性）

- ・一定の期間を経た後、児童・生徒の行動を観察。
 - 聞き取り（アンケート等何らかの形で実施）。
 - 再度意見を取り上げ、ふりかえりや思考の時間や期間が必要。

●理解のレベルについて（提言）

- ・段階的に評価することが大切。
 - 知る
 - 理解する
 - 実践する

※個人の道徳性がどのレベルにあるのかを把握し、一つ上のレベルに成長を促すための教材研究や発問をグループ（組織）で練り上げる必要がある。道徳性について段階的に把握するための方策として、道徳性の発達段階と予想される気づきや道徳的な観点と能力についての指標を各校で作成し、それに基づく単元計画や道徳の時間の実施を提言する。

【各校での実践の記録】

◆実施学年（3年）

◆評価を位置づけた授業実践の分析

○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

学習前

- ・お母さんが助かるからお手伝いをする。
- ・お母さんが喜んでくれるからお手伝いをする。
- ・お母さんにほめてもらえるから、お手伝いをする。

学習後

- ・これからも、お手伝いを続ける。
- ・おこづかいをくれるけど、それはもらっておく。
- ・おこづかいをもらうことが悪いことという意識はこの教材を学習した後もなかった。

- ・ブラッドレーの気持ちだけを追っていけばよかった。途中でお母さんの気持ちを考えさせてしまったところが、混乱をまねいてしまった。お母さんが、自分のことを世話してくれるのは、おかあさんの愛情だと理解しているのに、しつこくたずねてしまった。
- ・子どもたちは、家族やお母さんに感謝の気持ちを持っていた。
- ・改めてお母さんに感謝することができた。

○成果と課題

- ・家族やお母さんに感謝の気持ちを持っていたので、ブラッドレーがなぜ請求書を出したのか理解しにくい様子がうかがえた。
- ・どうしてお手伝いを進んで行うのか、もっともっと子どもから発表させたらよかった。

所属（吹田市立北山田小学校）

◆実施学年（3年）

◆評価を位置づけた授業実践の分析

○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

・道徳ノートの振り返りや感想で評価する。

評価規準：「母親の家族に対する愛情に気づいた主人公に共感するとともに、自らも家族の一員としての自覚を深める事ができる」

【具体的な意見】

①なぜ家事を手伝うか。

- ・手伝いたいから。 ・楽しいから。 8人 ・きれいにしたい。 ・将来のため。
- ・褒めてもらえるから。 ・お小遣いをもらえるから。
⇒自分のため、自分から進んで手伝いたい。
- ・妹に任せると、できないから自分がやる。 ・弟たちのため。
- ・お母さんが忙しいから。 3人 ・家の人が喜ぶから。
⇒家族のため、自分から進んで手伝う。
- ・手伝ってと言われるから。
⇒自分からやっているわけではない。

②「僕にも何かさせてください」と言った時のブラッドレーの気持ちは？

- ・お金は返さないといけないと思った。 3人
- ・だましてしまった。悪いことをした。ずるいことをしてしまった。 3人
- ・お金はもらわずに手伝おう。 ・許してくれるかな。ごめんなさい。 3人
⇒正直、誠実
- ・僕も何か手伝わないと。
- ・自分にできることはしよう。 3人
⇒勤労・奉仕
- ・お母さんを悲しませてしまった。
⇒家族愛

ねらいと異なった考えが出た時の追質問

- ・手伝ったことに対して、お小遣いをもらうことはいけないことなの？
 - ・お母さんは家の仕事をすることで、誰かからお金をもらっているの？
 - ・お母さんは何のために、家のことをしてくれているの？
- ⇒最終的に、「お母さんは、家族のために家事をしている」という考えが出てくるような流れにした。

③これから、どんなふうに関係を手伝うか。

- ・汚れていたら嫌だからきれいにしたい。 ・ていねいにする。真剣にしたい。 3人
- ・楽しくしたい。 6人
⇒自分のために仕事をしたい。
- ・家族が喜んでくれることをしたい。 ・お母さんの気持ちを考えて手伝いたい。
- ・お母さんがやっていることをしたいと思った。 2人 ・もっと兄弟のためにがんばりたい。
⇒家族のために仕事をしたい。家族愛
- ・ほかにも仕事をしよう。 ・つかれるけれどがんばろう。 2人
⇒勤労奉仕

【成果と課題】

成果

- ・ 道徳ノートを書くことで、児童一人一人の考えが把握できた。
- ・ 発表はしていないが、考えている児童について授業後に評価を行うことができた。
- ・ 書くことで考えをまとめることができるので、発表につながった。

課題

- ・ 書くことに時間をとられて、発表や意見交流までの時間を十分に確保できなかった。
⇒すべての発問に対して、考えを書くのではなくて、書く発問を絞る必要がある。
⇒中心発問を考える時間をしっかりと確保する。
- ・ 導入で考えた仕事観と終末での仕事観の違いが明確にならなかった。「お金をもらったことに対する後悔＝だまして申し訳なかった、ごめんなさい。」の意見が多くて、「母親の愛情や家族のため」といった感想が少なかった。
⇒ブラッドレーと母親の仕事観の違いを明確にして、「ブラッドレー＝自分のため」「母親＝家族のため」というような対比を強調する必要がある。

所属(摂津市立鳥飼小学校)

◆実施学年（3年）

◆評価を位置づけた授業実践の分析

○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

「母親の家族に対する愛情に気づいた主人公に共感するとともに、自らも家族の一員としての自覚を深めることができたか」ということをねらいとし、具体的に以下の3点について評価した。

- ①家族に喜んでもらうために働いている、家族のことが大好きだから自然に家事ができるということに気づく。
- ②喜んでもらえる手伝い、家族のことを思っている手伝いが自分のしている手伝いの中にあるかどうかを考える。
- ③自らも家族の一員として、自分の課題や今後の目標を見つけることができる。

①に関わる児童の感想

「お母さんは家族のことを思っているいろんな仕事をがんばっていることを知れてよかったです。」
「お母さんのせいきゅう書は0ドルでした。だから、きっとみんなのお母さんも僕たちのことを大事にしているんだろうなと思いました。」

②に関わる児童の感想

「私は洗たくものたたみを日曜日に行っているけど、それでお母さんは楽になるから、自分も楽しくなります。」
「私は今まで、おこずかいがほしいからお手伝いをやっていたけど、これからはお金に関係なく手伝いをしたいなと思いました。」
「今までお手伝いをしたらおこずかいをもらっていたけど、これからはもらわないようにしようと思いました。」

③に関わる児童の感想

「お母さんは当たり前のことをいつも一人でしているからもっと手伝ってあげたいし、お金は関係なくしてあげたいと思います。」
「今まで自分からお手伝いをしていなかったのですが、今日からはお手伝いをしたいです。」
「私は、ママに楽しんでほしいからお手伝いをしていたけど、もっと手伝って『ありがとう』というてもらいたいなと思いました。」

行った支援や工夫

- ・「わたしたちの道徳」を使わず、イラストをテレビに映したり、掲示物を使ったりしながら、先の展開がわからないように授業を進めた。「このあとお母さんはどうするでしょう」「このあとブラッドレーはどうしたんだろう」という問いかけをすることで、それぞれの登場人物の行動に着目させた。
- ・ふり返りを書く前には、自分の家族のことや自分の手伝いのことを考えながら書くように助言をした。
- ・自分の考えが書けた後は、ペアトークを入れ、他の子がどのように考えたかを知る機会を作った。

